

この新型コロナウイルス禍の中、 新しく先生になられた方々へのエール

桑びよん

こんにちは。当サイト管理人の桑びよんです。100年に1度とも言われる新型コロナウイルス禍の中で、初めて先生になられた方へ、どうしてもエールを伝えたくて、文章を起こします。また、現在「3密対策」として、多くの先生方が集まって対話形式で行われる研修が全国的にできない中にあります。その中で、ちょっぴりの先輩として、少しでも方向性を示せると良いな、安心してもらえるといいな…という思いで書いてみましたので、お時間が赦せば、お目通しください。内容は読みやすいように努めてフランクに書きます。ボクと対話していると思いながら読んでいただけると幸いです。

フレッツ!フレッツ!初任の先生!!

さてさて、着任されていきなり2ヶ月の休校。大変でしたね。子どもの顔も見ることができていないのに物事が進んでいった4月と5月。初任者の先生方には大変な苦労と葛藤があったと思います。心の状態は大丈夫ですか?職場の先生とは仲良くなれましたか?懇親の場も軒並み無くなってしまいましたね。まだ誰とも仲良くなれてない…という先生、大丈夫ですよ。職場って、1年、2年…と長い時間をかけて一緒に仕事をして、自然と仲のいい人ができていく場所です。大丈夫、大丈夫。これから、これから。

また、自宅勤務も長かった先の6月の本格再開。自宅勤務は他人と話さなくて済むし、自分のペースでできるし、ある種の「安心」があったのではないかと思います。6月、出勤できそうですか?緊張しちゃいますよねー。でもね、勇気を出して「教職生活」という大海原に出ることで初めて得られるものもあるんですよ。宝島をめざしたジャック・スパロウのように。きっと子どもが好きで、教えることが好きで、先生になったアナタには、キラキラに輝く子どもの笑顔や、「でーきーたー!!見て!見て!」という子どもの自己実現の瞬間に立ち会うという、最高の宝島が待ってます。ほらっ!ディズニーランドでも流れてるじゃないですか。『人生は一冒険だー♪』って。エッ、それはピーターパンだって?...うん。まあ、色々な人がキラリと光る宝物を探して、大海原へ漕ぎ出しているんですよ。なので、先生となったアナタも、勇気を出して!!教員生活という大海原へ漕ぎ出してください。今、外は100年に1度の大嵐だけれど!!でもね、『いいことばかりじゃないけど、悪いことばかりではない♪』の。今度はブルーハーツですよ。エッ、知らない?アレクサに聞いてみて。「アレクサ、トレイン・トレインかけて!!」って。...エッ、他にも?んー、じゃあ、今の不安の雨嵐は、やがて芽吹く心の草木を育てていると信じて!頑張っ!!(メアリと魔法の花ですよ)

何はともあれ、フレッツ!フレッツ!初任の先生!!

知識の「元手」がないと「考え」られない

さて、真面目な話を少し力を抜いて書きます。だって、僕自身もそうでしたが、駆け出しの段階で難しい文章ってそうそう読める物ではなかったですからね。肩の力を抜いて、でも、大切な事を伝えていくので、興味のある方は読んでみてください。

さてさて、アナタは何かとても好きなこと、とても詳しいことをもっていますか？何でも良いです。好きなインディーズ・バンドがあるとか。海外旅行にたくさん行ったことがあるとか。子どもの頃からピアノを習っているとか。家電マニアですとか。鬼滅の刃マニア…かぁ…。ボクと同じですね…笑。

例えば、「料理が趣味」の人は、料理に詳しい人同士で話すと話が弾みますよね。「肉じゃがのいもは三角形を意識して切る方が味が染みやすい」とか。「家で焼き鳥をする場合には砂糖をまぶすのがコツ」とか（←知ってました？）。そして、何人かで話した結果、知識が増えたり、より良い方法に繋がったりしますよね。「今度、じゃがいもの切り方変えてみよう」とか。「今度、焼き鳥に砂糖を振ってみかな」とか。そうやって対話すると、次の取り組みの「計画-準備-実施-反省-再計画」がよりベターなものに変わるんです。実は、先生たちがチームを組んで子どもへの教育を行う際にも、これと全く同じ流れを辿ります。

例えば、支援プランを作る時、その子のことをよく知っている担任団が集まって、「A君は心臓に配慮が必要だからペースランニングの時に気をつけよう」とか、「B君は絵本を聞く時に、視線がしっかりと絵に行っているから、絵カード支援が有効かも!」等と知恵と情報を出し合って考えて、よりベターな選択肢を選んで、その子の支援プランを作り上げ、日々の教育活動に向かっていきますよね。そこにはまさに、特別支援教育に詳しい人が集まっての「計画-準備-実施-反省-再計画」があり、特別支援学校の先生になったアナタの仕事は、そういう日々の話し合いの中で進んでいきます。

ただ、そういう話し合いに参加するには一つの前提条件があります。それは、「特別支援教育にある程度（まずは「ある程度」ね）詳しいこと」です。例えば、料理のことでも、家電のことでも、知的障害特別支援教育の理解でも、そのことへの知識（元手）が不足していると、考えることもできないし、良い選択肢を選び取るにも判断材料不足で選べません。その結果、自分の考えを伝えたり、判断や選択を伝えたりすることができませんよね。つまり、その話し合いの話題に関する知識が少ない人は、会話の中になかなか入れないんです。だから、特別支援教育に詳しくない駆け出しの先生は、最初はなかなかベテランの先生たちの会話の中に入って行きづらいんです。なので、チームとして働くためにも、タイトルの「知的障害のある児童生徒の理解」が、日々行われる話し合いの元手としてどうしても必要なんです。

このことは、とても大切な事なので、理解を深めるために次項で視点を変えてもう一度お伝えします。

先生であるアナタも「知識・理解」「思考・判断・表現力」「学びに向かう力・人間性」を辿って成長していきます

教採を通過したばかりなので新・学習指導要領の「知識・理解」「思考・判断・表現力」「学びに向かう力・人間性」は、きっとまだ覚えていますよね。先生たちはコレを子どもの学びの仕組みとして覚えたかも知れませんが、先生であるアナタ自身も、そのままこの仕組みに沿って先生として成長していきます。

まず、駆け出しの今は「知識・理解」がまだあまりない状態です（※経験を重ねられて先生になられた先生は除きます）。前のテーマでは「知識・技能」を「元手」と言いました。元手の少ない今は、次のステップの「元手を使って、めっちゃ考えること（思考）」、「元手を並べて、よりベターな選択肢を選び取ること（判断）」、「考えや判断をまとめてコミュニケーションを取ること（表現）」になかなかつながりません。なので、まずは特別支援教育についての「知識・技能」という元手を蓄えることが大切です（再）。そうすると、それが元手となって、めっちゃ考えること（思考）や数ある選択肢からよりベターなものを選び取ること（判断）、考えをまとめて周りの人たちとコミュニケーションを取ること（表現）につながっていきます。さらにその先では、アナタの実践が子どもたちの確かな成長につながり、それがアナタの中で意味・価値・重みづけされて、先生として人間と

してのさらなる成長の原動力へとつながっていきます。観点別評価で言うのなら「主体的に学びに取り組む態度」ですね（覚えてます？笑）。

知識や技能が思考・判断・表現につながり始めると、仕事の意味や価値を一層感じられるようになるので、ドンドンと楽しくなっていきますよ!!さあ、元手となる「知識・技能」を得る旅に一緒に出かけましょう!!

よし!「元手」となる「知識・技能」をゲットしよう!!

さあ、いよいよ直球ど真ん中の本題なのですが、ナント、

「あとはWEBサイトの必要な所を見といてください」

とだけ書いておきます。「ちょいちょーい!!!一番大切なところを放棄するなよ!!」って感じですよ。実はちゃんと理由があって、特別支援教育に関連する知識と技能の裾野は果てしなく広がっているんです。そう、例えるのなら富士山のようなもので、その裾野には「認知発達の仕組み」「知覚・からだ」「神経発達症圏の特性理解と支援」「行動科学」「キャリア教育」「教育原理・哲学」「福祉理念」「誕生(人生)の肯定」…と果てしなく関連領域が広がっているのです、スグにそれ等を理解していくのは不可能です。…でもね、この特別支援教育の関連領域が広くて、情報も散在していて、私自身初任者の先生の育成に携わらせていただく中で、初任者の先生の「何が分かっていないかすら分からない」「入り口として何を手に取れば良いか分からない」という苦悩を目の当たりにしてきました。そこで、「初任者の研修資料で何か良い物が見つからないか?」と1年以上をかけて作成したのが「Blog スクール」の資料です。この資料は、私が知的障害特別支援教育の広範に広がる知識を、初学者向けにまとめたもので、今のところ114 ページあります。でも、一気に全部読む必要は、全くありません。今の時点では資料にパラパラと目を通していただいて、いつか困ったときに「ここに書いてあったな!」くらいに思い出せるようにしてください。なかなかこういう網羅的な資料や構造化に対応した教材の頒布サイトと違って無いので、きついつかお役に立ちますよー（センシティブな内容なのでかなり珍しいですが、「性教育」の内容なども充実しています）。

ーおわりにー

何か先生(アナタ)の心のフックにひっかかるものありましたか?フランクな語調で進めて大変失礼いたしました。でもね、この新型コロナウイルス禍の中、初めて先生になられたアナタのことを心から心配しています。その中で、少しでも直接会ったかのような人間味を感じて頂きながら、楽しく読み進めていただき、何かの一助になれるのであれば幸いです。また、いつか実際にお会いできることを楽しみにしています。

余談ですが、幾つかのコラムを次のページに書いておきます。なんか「ちょっとお説教臭くなっちゃったなあ…」とも思うので、そういうのが苦手じゃなかったら読み進めてみてください。何か得るものがあるかも。

コラム① 外側に伸びる「成長」と、内側に広がる「成熟」

人ってどうしても「外から見えるもの」に目が行きますよね。東京大学出身だとか、インターハイ優勝者だとか、ピアノがめっちゃめっちゃ上手いとか。そういう外側から見える発達の成果はもちろん大切。私たちは先生として子どもたちの目に見える認知の力、からだの使い方、日常生活に必要な動作、礼節・所作に至るまでを教えます。でもね、忘れちゃいけないことがあるんです。それは、人間は外側に発達を伸ばしていく（「成長」していく）のと同じくらい、内側に発達を拡げていく（「成熟」していく）のだということです。例えば、友だちと一緒に何かを計画して、準備して、やり遂げる。文化祭でも運動会でも作業頒布でもなんでもそうですが、子どもたちはその中で本当に色々なことを「内側」に学んでいきます。「人に優しくする」ということの意味や価値を知ることそう。「礼儀正しくふるまう」意味や価値を知ることそう。「責任を負う」ということの重みを知ることそう。また、進行性の病気によって、外見の能力は減退していくけれど、内側にどんどんと学びを拡げて、すばらしい「成熟」をしている子もいます。そういった内側に広がる、目に見えない成長を支えることも、先生の大事な^{x2}仕事の一つです。そして、その際には、先生であるアナタ自身が問われることとなります。「人とは何か？幸せとは何か？成熟とは何なのか？自分はそういうことをどう解釈して、子どもにどの様に伝えていけるのだろうか？」と。先生としての外から見えるスキルアップも大切。でも、子どもの内面の成熟を支えるためには、先生であるアナタ自身の人間としての成熟も必要です。仕事だけに留まらず、たくさんのもの・人・ことに出会って、「自分育て」を一生懸命にしてくださいね。

コラム② 人に支配的に接しないこと -子どもにも大人にも-

こわーい先生が学級をビシッと締める…なんて時代は遠い過去のものになり、教育は子どもたち自身が、「確かな知識と技能」を元手にして、たくさん考え、複数の選択肢から選び取り、人に伝え、その営みの中で得られた結果を意味・価値・重みづける中で進んでいくものとなりました。そして、過去の教育の教訓から読み取れることは「支配的に子どもに接してはいけないよ」ということなのだと思います。支配的な教育の中では、子どもの主体的な思考や判断、表現の機会が奪われ、押しつけられた事だけをする子になってしまいます。また、「人を支配すること」に肯定的な意味づけや価値づけが行われて育ってしまいます。そういう人を育てていくのが教員の仕事ではないですよ。教育の大目的は、自分と他人の自由を相互承認できる社会を維持・保証することです（詳しく知りたい先生はヘーゲルとか教育哲学・原理の分野を掘ってください）、もっと平たく言っても、教え子の隣に来る人が、穏やかな気持ちになれるような人に育ててあげたいですよ。もちろん先生である自分自身もそうで在りたいものですが。

また、暴力は直接的なもの、非言語のもの（ため息一つでも子どもは深く傷つきます）、努めて自分から遠ざけてください。怒って噛みつくのなら獣と一緒にです。「知性と理性をもって、一番効果的な教育を、丁寧に行う」が先生の仕事です。但し、放任して、優しく接していればそれで良いという誤った解釈をしてもいけません。知性的・理性的な方法（科学に基づいた方法と言っても良いですが）に拠って子どもを伸ばし、導くという「教育効果を上げること」にはめっちゃこだわってくださいね。

コラム③ 上手くチームが組めない年もやってくるかも

特別支援学校ではチーム・ティーチングを組みます。アナタも特別支援学校の先生を続ける限りは、ずーっと誰かとチームを組んで仕事をしていきます。指導教官の先生やTTの先生と上手くやっていけそうですか？実はね、ここだけの話ですが、ワタシも10年に1度くらい、相性の悪い人と組んで、心の闇を拡げます。「今年、最後までたどり着けるかなあ…」って。でもね、小林ハルさんという方がうまいことを言っていて、ワタシもそういう時にはこの言葉を支えにしているので紹介します。

「良い人と歩けば祭。悪い人と歩けば修行。」

修行の年もきっとやってきてしまいます。でも、その時には腐らずに力を蓄えて、頑張ってくださいね。